

ルニ付テ折轉署ニ於テ去十七日午後三時左記十名ヲ檢束シ取調
中ナリ

記

警護團副團長 宮崎 檢 当二十九条

團 員 中村譽助 当二十九条 阿部四郎池 当三十四年

秋田泉平 当三十六年 森川正治 当三十二年

原 村夫 当三十二年 伊藤又吉 当三十二年

常田健治郎 当三十二年

岡水本部員 小出稻作 当三十七年 柴崎老美 当三十七年

以上

右及申(通)報候也

(別記二)

(表面)

赤色自衛團が共産党の下に働かざるや、製打働等皆は馬人の木場大りや、警働者日共産党
の下に金取組と牛組人で居るや、日本共産党万才、
赤色自衛團が赤色自衛、正義団を打殺せ、スパイ官大を打のめせ。

(裏面)

筆談を延したて駕かなんぞ。大衆党や大山一派の大と違ふぞ。全協の警働者は皆
目撃であるや、解散及びいかに駕さるれば、そんなものは大衆の力で折つてや
る。其より自分の身を守れ。
(四、大取一トガリ用紙)

(別記三) 金木場の兄弟諸君！

兄弟諸君！ 金木場の兄弟諸君！ ハッキリと俺達の目の前ト出て来な、見よ！ 羽の百名ト余る兄弟を衛
頭ト出さるも、金木場の臨々ト問題ヲ起らざればならぬ。 一休俺達はいらる人だ、
黙子奴等ト林から殺さるるか、それともカッパラツテ行くメとを敢取るか問題だ、
諸君！、それと俺達の赤い拳あるのよ、奴等は金力、権力、官力を以てか、子来りのト、
俺達は何を持て排撃する人だ。 兄弟！、俺達には團結の武器があるんだ。
こんな問題をも結局俺達自身の問題なんだ、 鐵血の國を國力の下にはあらざる権力も証眼
されるのだ。 昨日トツカヤ切つた潮波の問題は、二割五分の値下ト地村木村不勇取んケ
イト心シタ。 水カフルイ上かつた大爺は工場解散とぬかして俺達の軍本を踏みにけらうと
てあるんだ。 此れは早く潮波の才や、伊東畜生が勝手や方おやな人だ、奴等工場
主等は封建的に金木場の俺達をもちと、以上ト折らうと、いんて柴喰てる。 製